



聞けばきっと田舎に帰りたくなる

「無人駅」「民放の数は2局」「田舎」… 伝えたいのは「なにもない」ことのすばらしさ

地元高校生が作詞、地元出身アーティスト「NOBU」が歌う

宮崎県小林市のPRミュージックビデオが完成！

宮崎県小林市では、地元出身アーティストNOBUさんと一緒に、小林秀峰高校 商業科・経営情報科の3年生24人を対象に、小林市のPRソングを作るワークショップ型プロジェクト「日々のうたごえプロジェクト」を実施しました。このプロジェクトから生まれたPRソング「田舎女子高生」のミュージックビデオを小林市のPR動画として制作し、YouTubeの小林市公式チャンネルで本日公開します。



■ミュージックビデオについて

17年6月から約5カ月にわたり行われたワークショップで、高校生が地元のPRソングの作詞に挑戦する初の試みが行われました。講師は地元出身アーティストのNOBUさんです。そしてワークショップを経てでき上がった6つのPRソングの中から、ミュージックビデオにする1曲を選ぶための、投票LIVEを開催。制作から投票までの様子を収めたドキュメンタリータッチのミュージックビデオを制作しました。一見「なにもない」ようだけれど、高校生たちが生まれ育ち、好きだからこそ伝えたい小林市の良さを訴求します。

公開日時 : 2017年12月15日(金)

URL : https://www.youtube.com/watch?v=o_nelx3ghYg&feature=youtu.be

使用楽曲名 : 「田舎女子高生」

作詞 園田 凧、永野 美智子、廣崎 良佳、藤田 涼香

作曲 NOBU

■「日々のうたごえプロジェクト」について



うたにしたい、故郷があることの幸せ。

宮崎県小林市。地元の高校生に、その地元への思いを歌詞にしてもらいました。彼らの歌詞に踊る言葉は「無人駅」「民放の数は2局」「田舎」……そして「なにもない」。

しかし、子どもたちは知っていました。「なにもない」ことのいとさを。20年も生きていない若い瞳が見つめた故郷は、わたしたち大人が忘れつつある故郷でした。ゆっくりと、歌詞を眺めてみてください。そして、ぜひ歌に耳を傾けてみてください。

小林市のやさしい風を頬に感じるはずです。

地元出身アーティスト NOBU さんと一緒に、小林秀峰高校 商業科・経営情報科の3年生24人が5カ月、計15回以上に及ぶ作詞ワークショップに挑戦しました。

24人は、6チームに分かれて「高校生のあなたが想う小林市を歌にする」をテーマに歌詞作りに取り組み、生徒が書いた歌詞にNOBUさんが曲を付け、DEMO楽曲6曲が完成しました。

DEMO楽曲は、11/25(土)に小林秀峰高校内で開催された全校生徒630人だけが参加できるシークレットLIVE「コバ歌バトル」で披露されました。NOBUさんの歌声と、「まだ小林の良さが分からない」「卒業後に小林を離れる寂しさ」「母への感謝の気持ち」といった高校生の真っすぐな気持ちの歌詞に、会場では感動のあまり涙する生徒も。

このLIVE終了後に、全校生徒で行われた公開投票で決定した優勝作品がミュージックビデオになりました。なお、ワークショップで作った楽曲6曲は、てなんど小林プロジェクトホームページ「日々のうたごえプロジェクト」特設コンテンツ

(<http://www.tenandoproject.com/utageoe/>) で公開しています。

■ 作詞ワークショップ講師（小林出身アーティスト NOBU）

<コメント>

とにかく、小林市の女子高生のリアルを追求しました。

「田舎の良いところ」より「田舎への不満」の方が生き生きと意見が出てきたんです。

その先には必ず、良い側面が輝いて見えるはずだと思いました。

曲を最後まで聴くと「良いとこなんてまだわかんねえ 当たり前過ぎてまじ気づかねえ」というセリフがあります。ここが重要です。

どうか最後まで聴いて頂き、このメッセージの意味を感じていただけますと幸いです。

そしてこのような企画に参加させていただき、本当にありがとうございました。

高校生の「今」を教えていただいて、自分自身も、新しく気付くことが沢山ありました。

小林を離れたからこそ気付くこと、小林にいるからこそ気付くこと、

この高校生とのプロジェクトには、それが詰まっております。

皆さんも、それぞれの立場だからこそ感じられることがあると思いますので、是非聞いてください。

<プロフィール>



NOBU

1988 年生まれ、宮崎県小林市出身のシンガーソングライター。

5 歳からピアノを習い始め、1997 年に兄弟とバンドを結成。まだ 9 歳だった彼はドラムを担当。その後バンド活動を続ける一方で 14 歳から作詞、作曲を始め、18 歳の時にバンドは解散し、ソロのシンガーソングライターとしての活動を開始。2012 年アルバム「POWER TO THE PEOPLE!!!」でメジャーデビュー。2014 年メジャーレーベルとの契約解除、熊本の震災など数多くの動機が重なり「いま、太陽に向かって咲く花」の制作に入る。この曲が再起のメジャーリリースシングルとなり、広く歌い伝える。

■ (参考) ワークショップについて

作詞ワークショップ

高校生たちの、5カ月間の道のりです。世の中の歌詞を研究したり、演習やNOBUさんによる実演など、様々なカリキュラムを経て完成に至りました。

初めての作詞体験は、彼らに何を残したのでしょうか？

STEP 1 世の中の歌詞を観察しよう

まずは、NOBUさんによる歌詞の作り方講座。そして、世の中の歌詞をみんなと一緒に見ていきます。

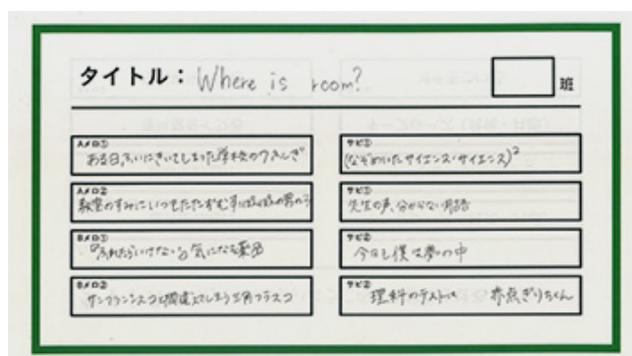
なぜこんな言い回しになっているのか？ この言葉にはどんな意図があるのか？ などなど。知らないことばかりです。

さらに、「かっぱ巻き」なる即興ソングの誕生も…！



STEP 2 身近なものをテーマに歌詞を書いてみよう -テーマ「理科室」-

作り方を学ぶだけではわからないことも多い。そこで、とにかく実際に歌詞を書いてみることにしました。テーマは「理科室」。教室を観察してみると、いろいろなキーワードが見つかりました。



STEP 3 テーマやモチーフを考えよう

いよいよ「小林市」について歌詞を書き始めます。何を伝えるか、こういった表現やモチーフを使うか、どんなストーリーにしたいのか、などを話し合っていきます。



STEP 4 フレーズを組み合わせていこう

考えたモチーフやストーリーに沿って、みんなでフレーズを集めていきます。あえて「小林市」に関連するワードを禁じることで、思いもよらなかった言葉に出会いました。一度書いてみたけどどうまくいかず、また一からやり直すなど、産みの喜びと苦しみを味わいます。



STEP 5 実際に曲をつけてもらおう

途中までスラスラ書けていた歌詞も、なかなか進まなくなってきたころ、NOBU さんに即興で曲をつけてもらいました。

すると、高校生たちは、一気にイメージが湧いてきた様子。仕上げに向けてのモチベーションが上がってきました！



STEP 6 代表曲を全校生徒投票によるガチバトルで決定しよう

いよいよ DEMO 楽曲 6 曲が NOBU さんにより披露される「コバ歌バトル」の 때가やってきました。

6 曲中 1 曲のみが代表曲に選ばれ、小林市の公式 PR ソングとしてミュージックビデオが制作されます。どの楽曲も甲乙つけがたい高校生の真っすぐな思いがこぼれた楽曲ばかり。

LIVE では、感動して涙する生徒も。いよいよ全校生徒による投票。「田舎女子高生」が代表曲として選ばれた結果となりました。



STEP 7 12/15(金)ミュージックビデオ公開

■関係人口の活用と、市民参加型ワークショップによる PR

小林市は、2015 年よりキャリア教育の一環として小林秀峰高校と協力し、市出身者を講師に招き高校生や市民を巻き込んだ「市民参加型ワークショップ」を行っています。出身者を関係人口と捉え、そのリソースを市に還元し、子どもたちに職業の多様性や情報発信の手法について学習してもらうことをテーマとしています。また、子どもたちの独自の視点を借りることで、市の魅力を多様に描き出すこともその目的の 1 つです。昨年、一昨年と PR 動画を制作し、今回の「日々のうたごえプロジェクト」は、3 年目の取り組みになります。

問合せ先

小林市役所地方創生課 柚木脇

Tel 0984-23-1148

Email k_sousei04@city.kobayashi.lg.jp